

第1回「あと数マイル・プロジェクト」推進検討会議議事概要

- 1 日 時：令和6年9月27日（金）14時00分～16時00分
- 2 会 場：埼玉会館 5C会議室
- 3 出席委員：久保田尚、金山洋一、伊藤香織、生田美樹（順不同、敬称略）
- 4 配布資料：次第、委員名簿、検討会議設置要綱、資料1、資料2、参考資料
- 5 内 容

（1）開会

（2）挨拶

（3）委員紹介

（4）委員長選出等

ア 委員長の選出

- ・委員の互選により久保田委員を委員長として選出した。

イ 会議の公開

- ・率直な意見交換を行うため、また、発言によっては特定の関係者の利害に影響がある内容を含むと考えられるとの意見を踏まえ、検討会議として、意見交換は非公開の扱いとすることを決定した。

（5）議題（委員からの主な意見）

ア 「あと数マイル・プロジェクト」推進検討会議について

- ・災害時の都心から埼玉への帰宅経路の確保など、防災、発災後の対応を論点に加えるべき。
- ・新しい路線によって、コンパクト化が促される反面、既成市街地がスポンジ化していく可能性がある。需要創出は必要であるが、まちづくりの視点も論点に加えるべき。
- ・埼玉から東京とは逆方向の東京から埼玉への流動も意識すべき。
- ・移動の需要を増やす観点から、二次交通の利便性を高めることも意識すべき。

イ 「あと数マイル・プロジェクト」各路線共通の課題について

- ・利便性の観点からは、ハード面だけではなくダイヤなどソフト面も含めて議論すべき。
- ・B/Cも重要であるが、延伸した場合にどのような効果があるか、現状の都市問題・交通問題の観点も含め、広く議論をしたほうがよい。
- ・延伸自体を目的とするのではなく、事業全体のミッションを明確化し、総合的に評価する視点が重要。
- ・「利便性の高い鉄道ネットワーク」というキーワードが出ているが、県民にとっての「利便性の高い」の定義について、解像度を上げていかななくてはならない。

- ・ 鉄道延伸がゴールではなく、ウェルビーイングを引き上げていくことが結果として高い延伸効果をもたらす。そのためにはいかに魅力的な地域を作っていくかが重要である。
- ・ 鉄道利用にあっては、延伸した鉄道を利用して行きたい場所があるかも非常に大きなポイント。県には地域資源が多く、コロナの影響で都内から埼玉県への行楽の需要も高まっており、観光消費には伸びしろがある。
- ・ 延伸路線の完成時期を踏まえ、顔認証、自動運転などの新技術の活用も含めて議論していくのがよい。
- ・ テレワークがそれなりに定着してきており、郊外に住んで都心で働くというライフスタイルも変わってくる。今までとは人の動き方も変わっており、短い移動や逆方向の移動などを念頭に入れて考えられるとよい。
- ・ 5路線は、路線によってステージが全く異なる。12号線と8号線ではまちづくりの観点での引き続きの議論、日暮里・舎人ライナー、多摩都市モノレールは延伸の必要性をより具体化する議論が必要。

(6) その他（事務局からの連絡）

(7) 閉会